

宮崎－ Bangladesh ICT人材育成事業 (2022年～2025年)

Bangladeshと宮崎、経済交流の架け橋を！

- 実施団体：宮崎大学
(提案自治体：宮崎市)
- 対象国・地域：
Bangladesh人民共和国

- 現地カウンターパート：
Bangladesh・コンピュータ
評議会、ノース・サウス大学



■ 協力内容：

- ・ BangladeshのICT人材を対象とした日本語・日本文化・ビジネスマナー等研修の実施及び同研修運営管理マニュアルの作成
- ・ 宮崎市ICT企業連絡協議会とBangladesh・ソフトウェア・情報サービス協会間の相互理解セミナーの実施及び双方のコーディネーターの能力強化

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・ JICAの技術協力プロジェクト内で実施した先行する人材育成事業B-JETプログラム (Bangladesh-Japan ICT Engineers' Training Program) において国内支援委員会委員を務め、B-JET修了生の日本国内への就業支援、受入れプログラム構築補助など積極的に支援。
- ・ 同プロジェクト終了後は、宮崎大学と現地大学、民間企業の協働でB-JETを継続実施し、「宮崎-Bangladeshモデル」を確立した。

■ 事業実施の背景：

Bangladesh (以下、バ国) では優秀なICT人材が数多く大学等から輩出されているものの雇用機会が不足しており、他方で宮崎県ではICT人材確保の課題を抱えている。この状況を受けて実施されたJICAの先行事業B-JETでは、バ国の高度ICT人材が日本就職を行う人材育成モデルが構築された。引き続き、バ国のICTセクターの発展、雇用拡大、中長期的なバ国-宮崎間の人材環流、そして宮崎県内企業のバ国進出や新規事業創出を目的とした双方の経済交流体制の構築が期待されている。

Bangladesh国の課題と成果

課題① Bangladesh国内人材の就職率の低さ

成果① Bangladesh宮崎間の経済交流促進のための 人材育成体制を強化

バ国企業人、学生を対象とする日本語・文化・ビジネスマナー等の研修を実施し、計9期296名が修了。若手人材にとっては「日本市場向けの人材」という新たな選択肢を提供し、雇用可能性を高めることにもつながった。

課題② 日本とのビジネス機会の少なさ

成果② Bangladesh宮崎間の経済交流体制の強化、 人材の雇用拡大

バ国と宮崎の各IT企業団体に経済交流窓口が設置され、両国で計10回セミナー等を開催、相互理解に繋がった。日本とのビジネスを模索するバ国の企業、バ国進出や新規事業創出を狙う宮崎の企業との連携促進となった。

事業の波及効果

！ 経済と人材の循環で地域活性化を目指す！

- Bangladesh-宮崎のICT企業団体間の連携協定
案件終了時、今後の更なるバ国-宮崎の連携のために、宮崎市ICT企業連絡協議会とBangladesh・ソフトウェア・情報サービス協会間で連携協定が締結された。
- 宮崎の企業とBangladeshの企業の人材交流
宮崎の企業がバ国企業のエンジニアを研修生として受入れするような交流事例も生まれた。バ国人材は具体的な技術スキルを提供し、日本のビジネス文化を学んだ研修生は現地に帰ってその知見を広げることで長期的な相乗効果を生み出すと考えられる